

第6回 四国の生コン技術力活性化委員会【第2期】議事録

J C I 四国支部

1. 日 時 平成27年12月19日(土)14時00分～17時00分
2. 場 所 高知工科大学 B棟5FのB501
3. 出席者 委員長：島 弘
幹 事 長：古田 満広
(徳島グループ)：井花 洋徳, 糸林 啓祐
(香川グループ)：安藤 政晴, 和田 博, 新居 宏美
(愛媛グループ)：渡部 善弘, (欠席)重見 高光, 竹村 賢
(高知グループ)：片岡 義信, 藤崎 明, 山崎 充, 森澤 勝弘
計13名

4. 議 事

- (1) 第5回委員会議事録の確認について(資料6-1)

一部誤字を修正し、第5回委員会議事録(案)が承認された。

- (2) 各グループの実験結果中間報告について(資料6-2～6-5)

各グループより実験結果の最終報告について報告があり、議論がなされた。報告内容、コメントおよび取り纏め方針等は以下のとおり。

愛媛グループ(資料6-2)

テーマ：現場で採取した供試体を即時持ち帰った場合と現場静置した場合の物性の違い

- ・ タイトル名で「物性の違い」としているが、「圧縮強度」だけ比較しているので再考が必要である。
- ・ グラフの外枠をなくすこと。
- ・ 「図-2.1 減振対策の詳細図」を追加した。
- ・ 減振対策に用いた「市販のマット」のやわらかさを記述しては。例えば、スポンジに近いとの記述や供試体9本を置いてマットがへこんである写真の掲載等を検討しては。
- ・ 表-3.2は必要ないのでは。
- ・ 図-3.2を縦軸の目盛りに1.000が表示されるよう修正する。
- ・ 図-3.3を追加した。
- ・ 図-3.3は静置した供試体の断面写真を全体と3等分を併記している。これでは90分運搬による粗骨材の移動状況を比較できないので「静置」と「90分運搬」の供試体の3等分断面を併記したほうがよい。
- ・ 写真-3.1によると、運搬する時間が長いほど研磨面にモルタル分が多くなっており、90分運搬では粗骨材が確認できない。しかし、減振マットを用いた写真-3.2では90分運搬でも粗骨材が十分に確認できる。

- ・ 3.2 の記述の順番を以下のとおり変更する。
3.2.1⇒3.2.3, 3.2.2⇒3.2.4, 3.2.3⇒3.2.2, 3.2.4⇒3.2.1
- ・ 写真-3.2 の下 1 行目の「…ブリーディングが…」の記述は不適切である。ブリーディングは主に水の移動のことであり、今回は実験についてはモルタル移動の記述に変更する。
- ・ 「4.まとめ」と「5.結論」を一つの項目に統合すること。
- ・ 現在 7 ページなので 6 ページに納まるよう表の削除を検討する。
- ・ 冬期と比べ夏期のほうが運搬による強度低下が少ない。原因については特定できないが、運搬中の外気温が影響したのではと考えられる。

香川グループ (資料 6 - 3)

テーマ 1 : 曲げ強度供試体の最小化に関する研究

テーマ 2 : 積み込み後のホッパーを洗浄したコンクリートの品質確保に関する研究

テーマ 3 : 四国の生コン技術力の現状等に関する調査

まだ、論文として整理できていない。島委員長に助言していただき、期日までには論文として取り纏める。

徳島グループ (資料 6 - 4)

テーマ : 骨材試験の省力化・迅速化の検討

- ・ タイトル名を変更する。
⇒ 生コンクリート工場における骨材試験の省力化・迅速化に関する検討
- ・ 図をより鮮明にすること。
- ・ 記述の変更。
4.1(1)の最後 : 「…0.30 以内である。」 ⇒ 「…0.30 以内であつた。」
4.1(2)の最後 : 「…よって判定する。」 ⇒ 「…よって判定できる。」
4.3(1)の最後 : 「…状態となる。」 ⇒ 「…状態となつた。」

高知グループ (資料 6 - 5)

テーマ : 高強度コンクリートに結合材としてフライアッシュを使用した場合の諸性状

- ・ 追加実験の自己収縮において FA 混入率が多いほど自己収縮率が小さくなる傾向が認められる。水和の進行の違いが影響しているのでは。
- ・ 追加実験の長さ変化試験結果は、乾燥期間が短いので論文には掲載しない。
- ・ 表-1 の「生産者又は産地」欄を削除する。
- ・ 表-2 の単位量の単位を修正する。
- ・ 「4.まとめ」において、W/B が小さいコンクリートに FA を内割で混入したことを強調

して記述する。

- ・ 「4.まとめの(5)」中性化深さ 7.0mm の評価を記述する。

(3) 平成 27 年度活動計画（年次大会への投稿，成果報告会等）について（資料 6－6）

- ・ JCI 年次大会 2016 への投稿期日までに島委員長の指導を受け論文を完成させる。
- ・ 3 月 15 日の成果報告会の発表者および委員の旅費は，委員会費の残金を活用する。
- ・ 成果報告会の発表順を以下のとおりとする。

香川①⇒愛媛⇒香川②⇒高知⇒徳島⇒香川③

配付資料

資料 6－0	議事次第，出席者名簿
資料 6－1	第 4 回委員会議事録(案)
資料 6－2	(愛媛グループ)論文
資料 6－3	(香川グループ)ホッパー洗浄実験の中間報告
資料 6－4	(徳島グループ)論文
資料 6－5	(高知グループ)論文，追加実験の結果
資料 6－6	平成 27 年度委員会活動計画(案)，成果報告会開催案内

以上

(記録者；古田 満広)